

H28. 5. 24

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○微生物・プリオン・自然毒—プリオン

英国国立 CJD サーベイランス研究所 (NCJDSU)、英国の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) 患者数を更新、新たに 1 人発生

公表日：2016 年 4 月 26 日 情報源：英国国立 CJD サーベイランス研究所 (NCJDSU)

<http://www.cjd.ed.ac.uk/documents/figs.pdf>

英国国立 CJD サーベイランス研究所 (NCJDSU) は 4 月 26 日、英国で変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) 患者が新たに 1 人発生したことを公表した。

1. 英国における vCJD 患者発生状況(2016 年 4 月 26 日現在)

2014 年以来となる 1 人の患者(死亡)が発生した。

(1) 死亡者数

- 1) vCJD 確定患者数 (確定された数): 123 人
- 2) vCJD ほぼ確定患者数 (神経病理学的確認がなされていない数): 55 人
- 3) vCJD 確定もしくはほぼ確定死亡患者数の合計: 178 人

(2) 生存者数

vCJD 確定またはほぼ確定患者数: 0 人

(3) 患者数

vCJD 確定またはほぼ確定患者数 (死亡者及び生存者の合計): 178 人

2. 世界の vCJD 患者発生状況(2016 年 4 月 26 日現在)

<http://www.cjd.ed.ac.uk/documents/worldfigs.pdf>

	一次感染者数 (生存者数)	輸血による二次感染者数 (生存者数)	1980～1996 年に 6 か月以上 居住歴のある人数
英国	175 (0)	3 (0)	178 ※3
フランス	27 (0)	-	1
アイルランド	4 (0)	-	2
イタリア	2 (0)	-	0
米国	4 (0) ※1	-	2
カナダ	2 (0)	-	1
サウジアラビア	1 (0)	-	0
日本	1 (0) ※2	-	0
オランダ	3 (0)	-	0
ポルトガル	2 (0)	-	0
スペイン	5 (0)	-	0
台湾	1 (0)	-	1

※1 3人目の症例はサウジアラビアで生まれ育ち、2005年末から米国に居住していた。米国の報告によれば、サウジアラビアでの幼児期に感染した可能性が高い。4人目の症例には英国を含む欧州及びサウジアラビアへの渡航を裏付けるものがない。米国外で出生し、クウェート、ロシア及びレバノンでの居住歴があり、米国に移動する以前に感染したとみられる。

※2 1980～1996年のうちの24日間英国に居住歴があった。

※3 英国の178人目の症例はプリオンたん白質(PRNP)遺伝子コドン129がメチオニン・バリンヘテロ接合体(MV)であった(英国で初の症例、これまでの症例は全てメチオニンホモ接合体(MM))。

○関連情報(海外)

・英国国立CJDサーベイランス研究所(NCJDSU)：「英国におけるクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)2014年次報告書(第23報)」(2015年11月18日) 2.3 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)

1. 2014年12月31日までに英国では177人の確定又はほぼ確実のvCJD症例が確認されている。177人中75人(42%)が女性で、102人(58%)が男性であった。発症時の年齢中央値は26歳で、死亡時の年齢中央値は28歳であった。発症の最少年齢は12歳、最高年齢は74歳であった。1990～2013年における初発症状から死亡までの期間中央値は14か月(範囲6～114か月)であった。
2. 確定及びほぼ確実のvCJD症例の遺伝子解析結果は全てPRNP遺伝子コドン129がメチオニンホモ接合体(MM)であった。今日まで、英国では1989年より後の出生者にvCJD症例は確認されていない。
3. vCJD症例の死亡事例をモデル化した結果から、疾病流行のピークは28人の死亡者が出た2000年頃と示され、その後減少した。
4. ピークは既に過ぎたが、今後別の遺伝子型の亜集団でピークが来る可能性があるかもしれないことに留意することが重要である。しかし、今日まで第2の波が来たとの証拠はない。1999年以前の輸血において、後に臨床的にvCJDと診断された供血者からの輸血に関連したvCJD感染症例が今日までに4例発生したように、ヒトからヒトへの感染が現在起きている可能性もあり得る。

<http://www.cjd.ed.ac.uk/documents/report23.pdf>

○関連情報(国内)

・食品安全委員会 国際セミナー ～牛海綿状脳症(BSE)と食の安全に関する科学～ (2016年5月11日) 「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)について」 エジンバラ大学 臨床脳科学センター教授 ロバート・ウィル

1. 英国における178人目のvCJD患者に関するデータ

(1) 男性 36歳、過去の病歴、家族の病歴は特になし。

(2) 2014年: 就労困難、2015年: 無気力、行動の変化、運動失調、進行性認識機能障害など、2016年: 死亡

(3) 罹患期間 20か月間

(4) PRNP遺伝子コドン129の遺伝子型: メチオニン・バリンヘテロ接合体(MV)(英国で初の症例、これまでの症例は全てメチオニンホモ接合体(MM))

2. PRNP遺伝子コドン129の多型について

クルー病の疫学研究から、PRNP遺伝子コドン129がメチオニンホモ接合体(MM)では発症が早く、メチオニン・バリンヘテロ接合体(MV)あるいはバリンホモ接合体(VV)の保有者は潜伏期間が長く、より高齢での発症又は流行の終息期に発症する可能性がある、とする知見がある(Goldfarbら、2004年)。

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fscis/>) をご覧下さい。